

放課後等デイサービス なないろ

危機管理マニュアル
防災マニュアル

放課後等デイサービス なないろ 行徳

市川市行徳駅前2-1-1 2階

TEL・・・047-306-7520

携帯・・・080-4163-1163

事故(トラブル)発生時の対応フローチャート

サービス提供中に事故(トラブル)発生



利用者の状態を確認



管理者に報告



管理者が現場へ急行



医療機関受診等の手配



児発管が保護者様への連絡



救急搬送の手配(119)



事故報告書の作成



原因究明、再発防止への取り組み

防災および災害時対応マニュアル

(1) 以下の担当者を決め、管理者は当日勤務のスタッフに周知させる

- ① 管理者・児発管
⇒ 消防署、警察署、病院等へ通報
- ② スタッフ(1)
⇒ 救急車誘導
- ③ スタッフ(2)
⇒ 避難誘導、人員点呼

(2) ケーススタディ

- ① 疾病、怪我の対応
 - ・ 管理者・児発管が応急処置の指示を行う
 - ・ 管理者・児発管が救急車(119)要請を行う
 - ・ スタッフ(1)は管理者・児発管の指示のもと、救急車の誘導を行う
 - ・ スタッフ(2)は利用者を点呼し、疾病、怪我をした利用者以外の適切な指導を行う。
- ◎ 協力医療機関
 - ・ 行徳フラワー道りクリニック
市川市行徳駅前1-26-12 六甲ビル2階
TEL 047-306-9307
- ② 火災への対応
 - ・ 管理者・児発管は119通報を行う
 - ・ スタッフ(1)は出火場所から安全な箇所より利用者を外に避難誘導し、点呼を行う
 - ・ スタッフ(2)は他スタッフと共に消火活動を行う
出火が著しい時は避難を最優先する
- ③ 地震への対応
 - ・ 地震発生時、机の下などで揺れがおさまるまで避難する
 - ・ 管理者・児発管が戸外への移動指示を行う
 - ・ スタッフ(1)戸外で点呼を行う → 管理者・児発管に報告
 - ・ 現状を把握し、管理者・児発管は市川市立第七中学校へ移動指示を行う
 - ・ 児発管はなないろ携帯・緊急連絡先書類等を持っていく
 - ・ 管理者・児発管は第七中学校への一時避難が完了した時点で保護者に各自の状況を連絡
 - ・ 保護者と連絡が取れない場合は、とれるまで利用者の安全を確保し、なないろ、もしくは第七中学校で待機する
- ④ 不審者への対応
 - ・ 管理者・児発管はのもと不審者の移動経路を遮断、阻止する
 - ・ 玄関に入ってきた時点で「出て行って下さい」と3回程告げ退出しない場合は不法者侵入として、警察(110)に通報する
 - ・ スタッフ(1)安全な出口から戸外へ避難させる
- ⑤ 水害への対応
 - * 立ち退き避難(水平避難)の場合 = 市川市立第七中学校へ避難する
 - * 屋内安全確保(垂直避難)の場合 = 本施設が2階である為2階にとどまる
= 屋上に避難する

定期的な防災に関する訓練について

* 1年に2回

- ・救急対応の確認 ⇒ スタッフ全員
- ・避難訓練 ⇒ 利用者、スタッフ
- ・消火器使用方法の確認 ⇒ スタッフ全員
- ・避難食・飲料の確認
(名簿・携帯充電等避難時に必要な物をリュックに入れておく)

保護者様への連絡について

- ①保護者様への緊急連絡先名簿・・・事務所、カウンターに保管
- ②保護者様への連絡事項
「いつ」、「どこで」、「何をしています」、「どこが」、「どうなった」を誠意をもって正確に伝える。
- ③医療機関を受診する場合は、必ず保護者様に連絡を取り、どの医療機関へ受診するかを確認してから受診する。

暴風警報・暴風雪警報・避難指示・避難勧告・大雪警報等の 発令時におけるサービス提供のついで

この場合は学校に準じて、利用者様の安全を第一に下記の様な対応となりますので、ご理解、ご協力をお願い致します。

- ①午前7時時点で、市川市に暴風警報、暴風雪警報、避難指示、避難勧告、大雪警報が発令されてる場合は、朝からのサービスは休止します。
- ②午後12時までに、市川市の暴風警報、暴風雪警報、避難指示、避難勧告、大雪警報が解除された場合は、その当日利用予定の方にご連絡のうえ、利用ご希望の場合は午後からお迎えにあがります。
- ③午後12時を過ぎても、市川市の暴風警報、暴風雪警報、避難指示、避難勧告、大雪警報が発令されてる場合は、午後からのサービスは休止します。

大地震等の地震災害時のサービス提供について

この場合は学校に準じて、地震に対する「注意情報」や「地震速報」が発令された時点で、なないろ行徳も、利用者様の安全を第一にサービスを提供させていただきます。

- ①サービス提供する前に、「注意情報」や「地震速報」が発令された場合は、その日のサービスを休止するとともに、その後の地震の被害の状況をみてサービスの再開の見込みを保護者様に連絡致します。
- ②サービス提供中に、「注意情報」や「地震速報」が発令された場合は、速やかに保護者様に連絡をとり、その後の状況に応じて引き渡し方法のご相談となります。
- ③被災後、道路が寸断された場合、もしくは保護者様とご連絡がつかない場合は、ご連絡がとれるか、お迎えに来ていただけるまでは、食糧や飲み水を確保して、体調管理と安全を第一に事業所(もしくは第七中学)で待機しています。

衛生管理 ・ 感染症マニュアル

感染症対応

感染症予防や健康維持の為、常に清潔を心がける。

平常時

- (1) 毎日(営業日)における衛生管理
サービス提供時間前 : 各設備の衛生管理(点検)

(内容)
 - * トイレ・洗面台・・・清掃。トイレットペーパー、ペーパータオルの補充
 - * キッチン・・・清掃。ペーパータオルの補充。調理器具、食器の衛生確認
- (2) 毎日(営業日)における利用者への衛生支援、指導
 - ① 利用者が通所時必ず以下の確認を指導員は行う
 - * 衣類持ち物等の衛生確認
 - * 怪我等の確認
 - * 手洗い、うがいを行う
 - * 利用者の連絡帳の確認
 - ② 以下の時点で必ず手洗い・うがいを行う
 - * トイレ使用后
 - * おやつの前
 - * 外遊びからの帰り
 - * その他必要に応じて
 - ③ 長期休み期間・・・検温を行う

緊急時

- (1) 疾病の可能性のある利用者が利用の場合
 - ① 体調を確認。安静にし検温。
 - ② 保護者様に連絡を行う。
- (2) 上記(1)の事故対応
 - ① 管理者・児童発達支援管理責任者(以下、児発管)よりご家族様に連絡
 - ・利用者本人の病状、経過説明
 - ・感染症および伝染病ではないかを聞きとり

*** 感染症の出席停止利用期間(日本学校保健会にもとづく)はなないろのご利用はできません**
akkohoken.jp/files/special/images/special7/h04.pdf

*** 学校、学級閉鎖期間は症状の有無にかかわらず、感染防止の(うつらない・うつさない)の観点からなないろのご利用はできません**

* 主な感染症

◎インフルエンザ

～症状～

- ・感染後1～4日間(平均2日)の潜伏期間を経て突然の高熱が出現し、3～4日続く。
- ・全身症状(倦怠感、関節痛、筋肉痛、頭痛)を伴い呼吸器症状(咽頭痛、鼻水、痰)があり、おおよそ1週間の経過で軽快する。
- ・また合併症(肺炎、中耳炎、熱性けいれん、脳症)を併発する可能性もあるので注意。
- ・また実際は感染しているのに、全く症状のない不顕性感染症例や本人も周囲も単なる風邪としか認識していない軽症例も存在する為、特に職員も注意が必要。

～予防法～

- ・基本の予防はワクチン接種
- ・ワクチン接種しても感染を防ぐ事は出来ないが、感染後の発症率と発症後の重症化率を下げる事の期待はできる。
- ・インフルエンザウイルスは体外に排出されると数時間で死滅する。
- ・またアルコール消毒も効果が高い。

◎感染症胃腸炎(ノロウイルス)

～症状～

- ・非常に感染力が強く100個以下の少量ウイルスでも人に感染し発症する。
- ・感染症の嘔吐物や糞便を適切に処理せず残させることにより熱等の症状がでる。
- ・潜伏期間は12～48時間で、嘔吐、下痢、腹痛、発熱等の症状がでる。
- ・通常3日以内に回復するが、嘔吐、下痢が頻繁にある場合は、脱水症状を起こす可能性もある為、排尿があるかどうか確認が必要である。

～処理方法～

- ・逆性石鹼やアルコール消毒の効果は期待できず、85℃で1分以上の加熱または次亜塩素ナトリウム消毒が最も効果的である。

～予防法～

- ・効果のあるワクチンがない為、感染者の隔離と嘔吐物や糞便の適切な処理、ウイルスを不活性化させる事が重要である。
- (流行期の嘔吐、下痢は感染症を疑う必要がある)

◎腸管出血性大腸菌感染症(O157・O26・O111等)

～症状～

- ・飲食物を介し経口感染と感染者から人・人感染する直接感染、他に保菌している動物に触れる事による感染のある。
- ・激しい腹痛と共に頻回の水様便や血便の症状が現れ発熱は軽度である。
- ・血便は初期では少量で、しだいに血液の量が増えてくる。

～予防法～

- ・経口感染予防
- ・調理を行う前に、下痢症状や手の傷等ないか確認する。
- ・食材を営生活適切な温度で保管し、十分な加熱調理をする。
- ・加工済みの食材を提供する場合は、衛生的に調理、管理されているか確認する。

・接触感染

- ・手洗いの励行(普段からしっかり手洗いの習慣をつける)

◎新型コロナウイルス感染症

～症状～

・発熱や喉の痛み、咳が長引くこと(1週間前後)が多く、強いだるさ(倦怠感)を訴える方が多い事が特徴である。
飛沫感染と接触感染により感染する。

①飛沫感染

感染者がくしゃみや咳、唾などの飛沫と一緒にウイルスが放出する。
別の人があるウイルスを口や鼻から吸い込み感染する。

* 感染を注意すべき場面: 屋内などで、お互いの距離が十分に取れない状況で一定間いる時

②接触感染

感染者がくしゃみや咳を手でおさえる手で周りの物に触れて、ウイルスが付く。
別の人がある物に触ってウイルスが手に付着した手で口や鼻を触って粘膜から感染する。

* 主な感染場所: 電車やバスのつり革、ドアノブ、スイッチなど

■新型コロナウイルスに感染しない様にする為には
まずは、石鹼やアルコール消毒液などによる手洗いを行う。

咳などの症状がある人は咳エチケットを行う。

また、持病がある人は上記に加えて、公共交通機関や人混みの多い場所をさけるなどの、より一層注意する。

①手洗い

ドアノブや電車のつり革など様々な物に触れる事により、自分の手にもウイルスが付着している可能性がある。

外出先からの帰宅時や調理の前後、食事前などこまめに手洗いする。



②普段の健康管理

普段から、十分な睡眠とバランスのよい食事を心がけ、免疫力を高めておく。

③適度な湿度を保つ

空気が乾燥すると、喉の粘膜の防衛機能が低下する。乾燥しやすい室内では加湿器などを使って、適切な湿度(50~60%)を保つ。

◎職員の衛生管理

- ・清潔な服装と頭髪
- ・爪は短く切る
- ・日々の健康管理
(風邪に似た症状や嘔吐・下痢はないか)
- ・体調不良者は速やかに医療機関の受診及びエチケット対策
- ・児童の体調管理
(体温調節が上手くできない児童への体温管理、衣類の着脱指導含む)

送迎車チェックマニュアル

* 駐車場から離れている為、駐車場までを離しチェックリストでの確認作業ができない為(安全防止の観点から)なないろ到着時に、管理者・児発管が利用表にチェックを行う。

* 送迎車両には安全防止(ココール置き去り防止ブザー)を設置。
(エンジンOFF後音楽が流れる→全席確認→音楽ボタンOFF)

* 連絡のない欠席の利用者様には電話・Lineで安否確認を行う。

